

教育長会見

2024年1月19日

教員の長時間勤務の解消と
学校・保護者・地域の相互連携

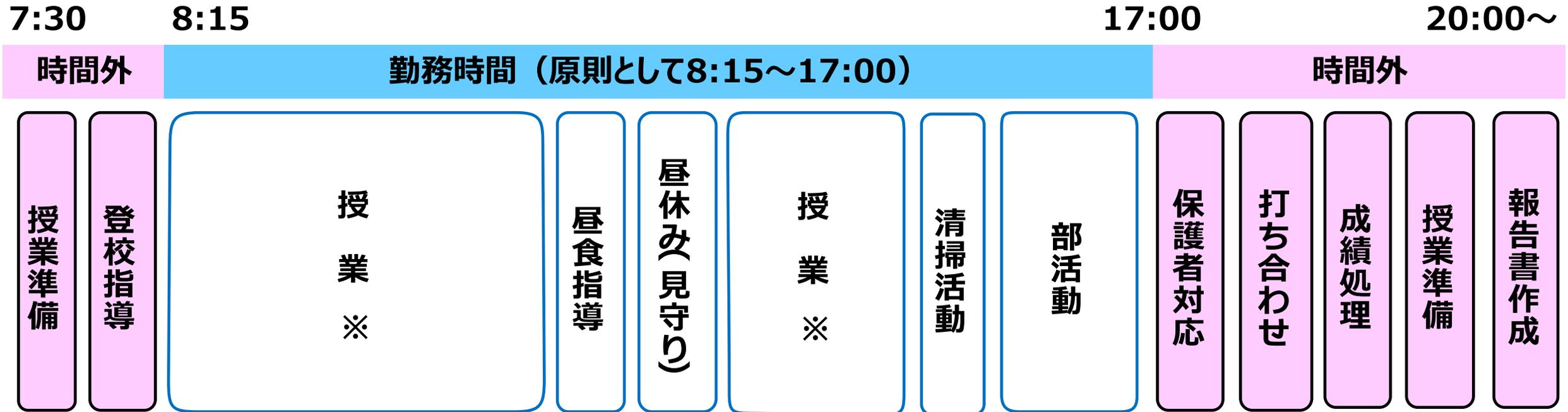
教員の長時間勤務解消に向けた取り組み

- ・ 教員の勤務状況
- ・ 働き方改革の取り組み
- ・ 取り組みのスローガンと目標

保護者・地域の理解と相互連携

- ・ 保護者の皆様へのお願い
- ・ 地域の皆様へのお願い

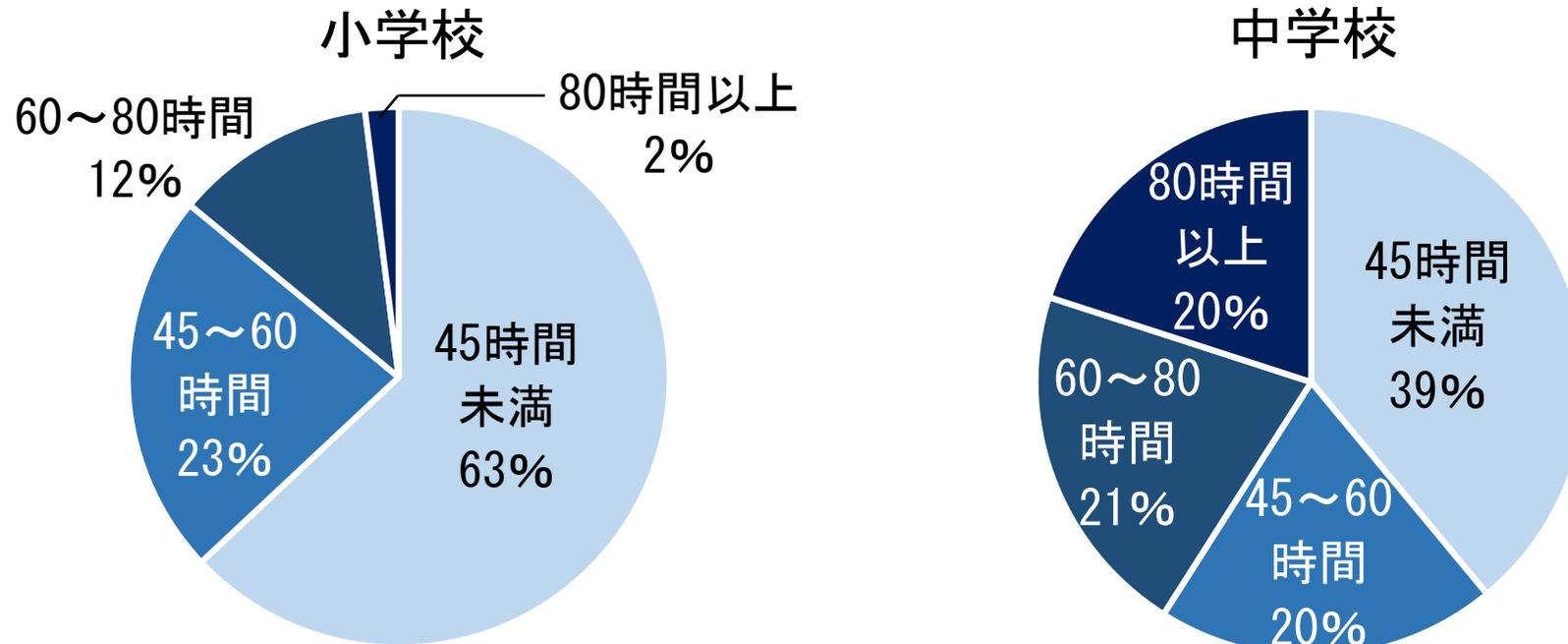
【中学校における教員の1日（例）】



※授業の空き時間（1日に1～2コマ）には、学級経営に関する事務や成績処理を行う。

- ・ 本来業務である成績処理・授業準備を勤務時間外に行わざるを得ない状況

【時間外勤務の状況〔2022年度平均 ※8月を除く〕】



- ・ 中学校の約2割の教員（約460人）が、いわゆる「過労死ライン」（月80時間）を超えている状況

【長時間勤務の影響】

- ・ 仕事の質への影響

仕事の効率が低下し、ミスが起きやすくなる
子供たちのちょっとしたサインを見逃す恐れも

- ・ 心身への影響

疲労が蓄積し、健康面のリスクが高まる

〔参考〕 精神疾患による休職者数

2018年度 68人 → **2022年度** 105人（約1.5倍）

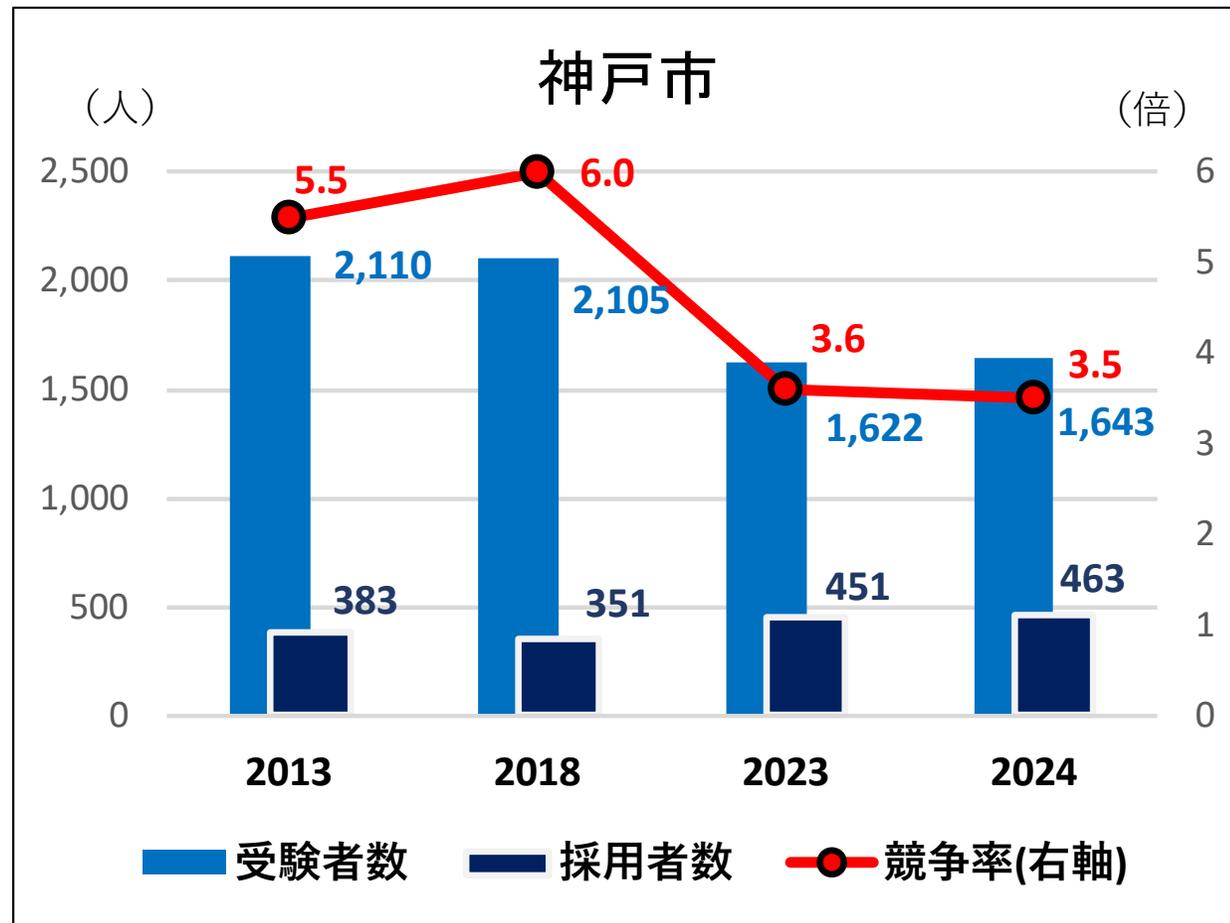
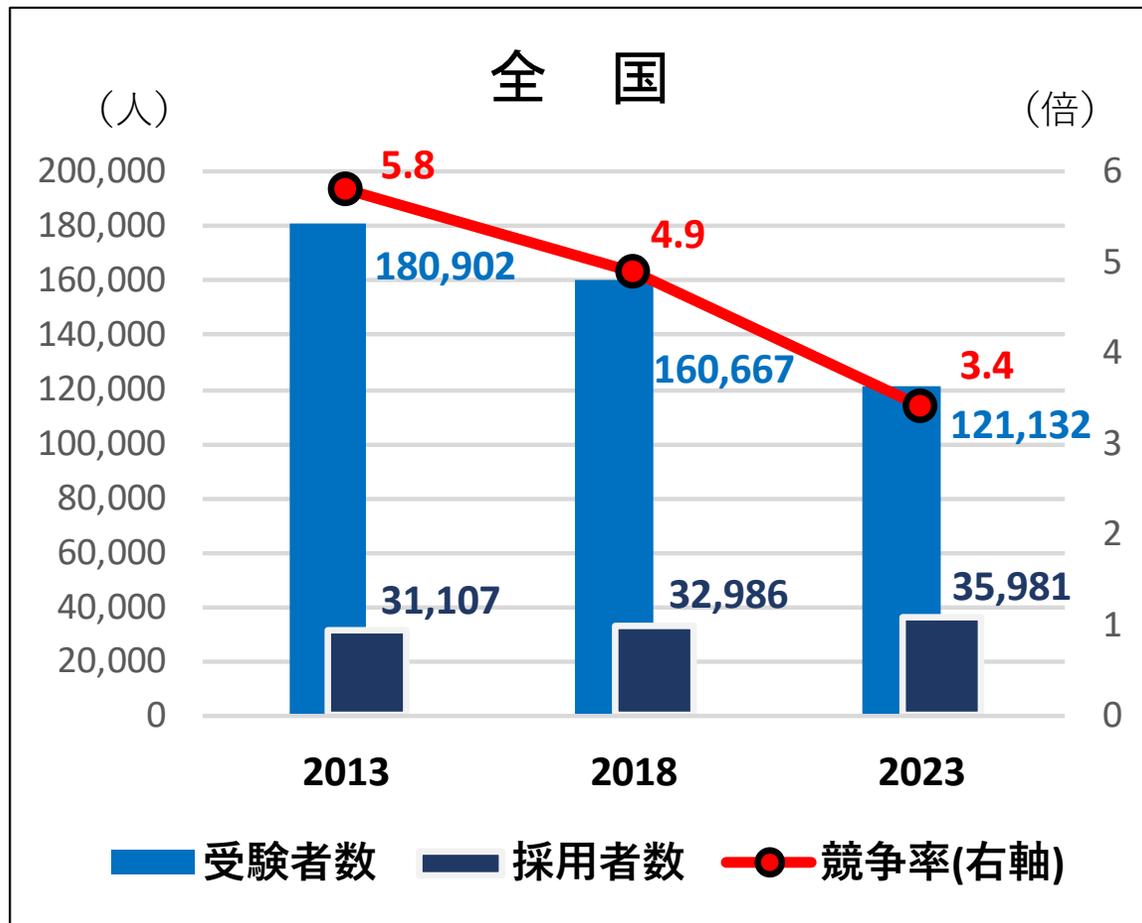
【教員のなり手不足】

- ・ 教員の過酷な勤務を敬遠し、全国的に志願者が減少
年度当初から欠員が発生
- ・ 年度途中の産育休等の代替となる臨時講師の確保が困難な状況



このような状況が続くと、学校運営が立ち行かなくなる恐れも…

〔参考〕 教員採用試験の状況



働き方改革の取り組み①

○2019年3月

<神戸市立学校園働き方改革推進プラン>

- ・就学援助の申請受付事務を教育委員会事務局に引き上げ
- ・部活動ガイドラインの策定・運用 など

○2020年1月

<小中学校における教育活動等について（方針）>

- ・成績通知表の記載項目を整理・簡素化
- ・夜間電話について音声アナウンス対応に切り替え など

働き方改革の取り組み②

○2022年1月

<令和の時代における『学校の業務と活動』>

これまで当然のものとして取り組んできた学校の業務や活動を時代にふさわしいものに創り直す

【取組方針】

- ・「これまでの当たり前」の見つめ直し
- ・役職や職種に応じた業務の標準化

働き方改革の取り組み③

【主な取り組み内容】

第1弾 2022年 1月～	過度な練習を抑制するなど、学校行事（入学式・運動会等）の見直し
	学校・学年・学級だより等の統合
第2弾 2023年 1月～	授業時間数の適正化
	下校時刻の繰り上げなど、1日の生活時間の見直し
第3弾 2024年 1月～	給食費の徴収・管理業務の事務局への一元化
	入試出願事務の見直し

「見つめ直そう 子供も先生も笑顔で過ごせる学校へ」

- ◆これまで当たり前前に取り組んできた教育活動であっても、社会環境が大きく変化する中で、時代にふさわしい活動となるよう、見つめ直すことが必要です。
- ◆まずは教員同士が率直に意見を交換し合い、対話を行うことにより、その業務や活動が何を目的としたものなのか、共通認識を持つところからはじめましょう。
- ◆若手教員が積極的に発言しやすい雰囲気づくりに努めましょう。

「遅くとも19時までには退勤しましょう」

- ◆長時間勤務が続くと、仕事の効率が低下し、ミスが起こりやすくなります。また、いつの間にか疲労が蓄積し、健康面でのリスクが高まります。
- ◆明日も子供たちと笑顔で過ごすために、遅くとも19時までには退勤しましょう。

学校・家庭・地域を取り巻く社会環境が大きく変化

（学校における学習内容の増加、共働き世帯の増加、
少子・超高齢化、SNSの急速な普及 など）



保護者、地域にお住まいの方と学校が意識を共有し、
お互いに連携して子供たちの学びや成長を支えて
いくことが大切

【神戸の学校づくりの指針】〔2022年5月策定〕

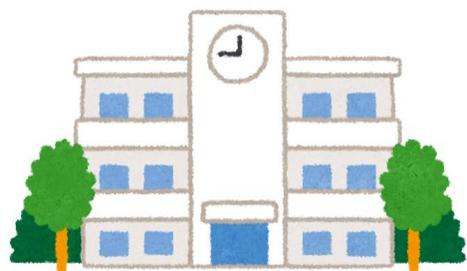
「人がつながり ともに創る みんなの学校」
（神戸が目指すこれからの学校の姿）

学校・家庭を含めた地域社会における人と人とのつながり
の中で、子供たちの生きる力を育んでいく



「地域とともに創る学校」の実現に向け、2022年度末
までに全ての小中学校・義務教育学校で学校運営協議会を設置済

学校



▶▶▶ 集団での学習活動や体験活動を通じて、子供たちに基礎的な学力を定着させるとともに自律心や社会性・協調性を育む場

教員

▶▶▶ 子供たちに寄り添い、健やかに成長できるよう導く



- ・ 本来は家庭や地域で対応・解決していただくような相談や要望までもが学校に寄せられる傾向
- ・ 過度な要望や長時間に及ぶ苦情が増加



- ・ 学校業務が肥大化し、本来果たすべき役割に支障
- ・ 教員の長時間勤務の一因に

【学校に寄せられる一部の相談・要望・苦情の例】

- ・ 子供が夜中までゲームをしているのでやめるよう指導してほしい。
- ・ ピアノ伴奏（音楽会）の選考場面を録画して見せてほしい。
- ・ 近所の小学生が家の前でボール遊びをしているので注意してほしい。
- ・ 生徒の登下校のマナーが悪いので、教員が毎日通学路に立って指導してほしい。

- ◆ 学校では、子供たちが学校生活を過ごす中で守るべき決まりやマナーについて指導しますが、学校外での生活に起因する問題については、学校として対応することは困難ですのでご理解願います。

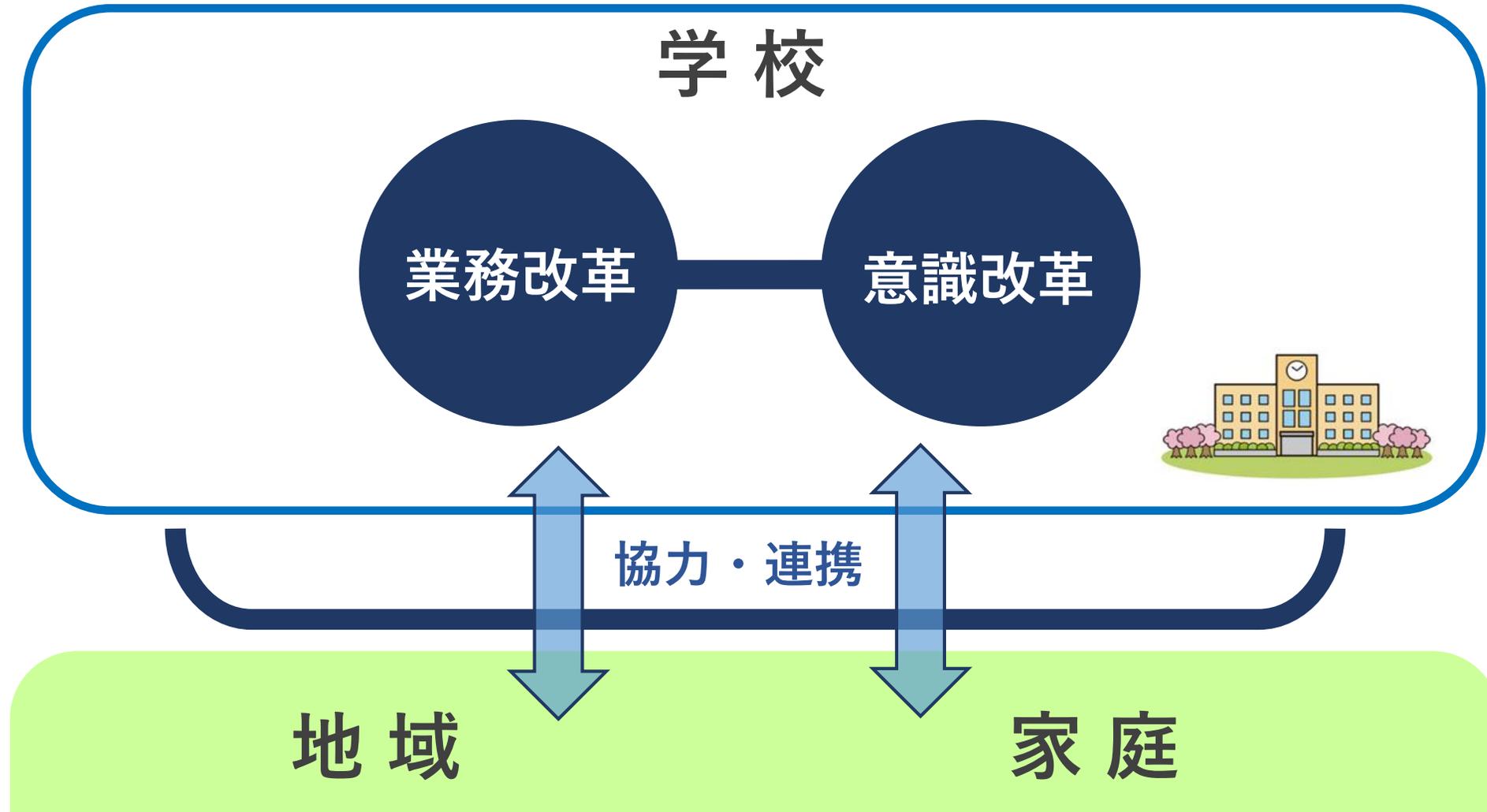
(内容に応じて警察や医療機関等の関係機関にご相談ください。)

- ◆ 子供たちが基本的な生活習慣を身に付けることができるよう、ご家庭での教育をお願いします。

- ◆ 学校だけでは、子供たちの成長や学びを支えていくことはできません。今後も、地域の皆様のお力を是非ともお貸しくください。
- ◆ 登下校時の見守りは、多くの地域の皆様の力に支えられており、大変ありがたく思っております。引き続き、子供たちを温かく見守っていただきますようお願いいたします。



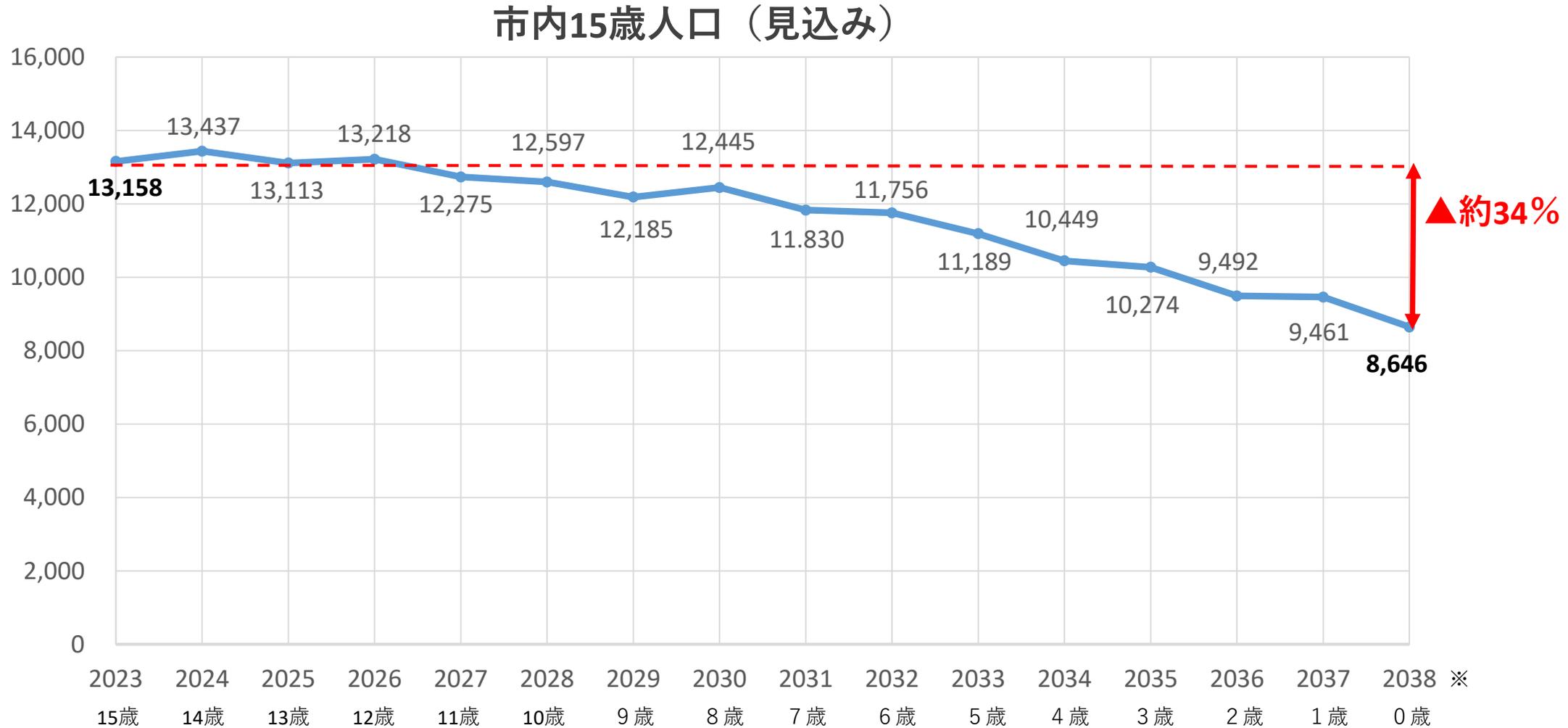
- ◆ 子供たちの学校外での生活に起因する問題について、学校として対応することは困難ですのでご理解願います。
(内容に応じて警察や医療機関等の関係機関にご相談ください。)
- ◆ より良い学校運営のためには、地域の皆様のご理解やご協力が必要ですので、学校運営協議会等を通じた取り組みへのご参画をお願いします。
- ◆ 学校と地域がこれまで以上に情報共有や意見交換を図りながら、
教員の多忙化をはじめとする教育課題に対応し、十分に連携してともに子供たちの成長や学びを支えていきましょう。



これからの市立高等学校について

1. 市立高等学校をとりまく状況

(1) 少子化の状況



※住民基本台帳における各年齢人口（2023年4月時点、転出入等の増減を考慮していない）

1. 市立高等学校をとりまく状況

(2) 神戸市内にある高等学校（全日制）

2023年度

	学校数	生徒数
県立	19校	14,279人
市立	5校	4,951人
私立	26校	17,428人
計	50校	36,658人

「学校基本調査」（文部科学省）及び「神戸市立学校園 学級数・児童生徒数等」より引用

1. 市立高等学校をとりまく状況

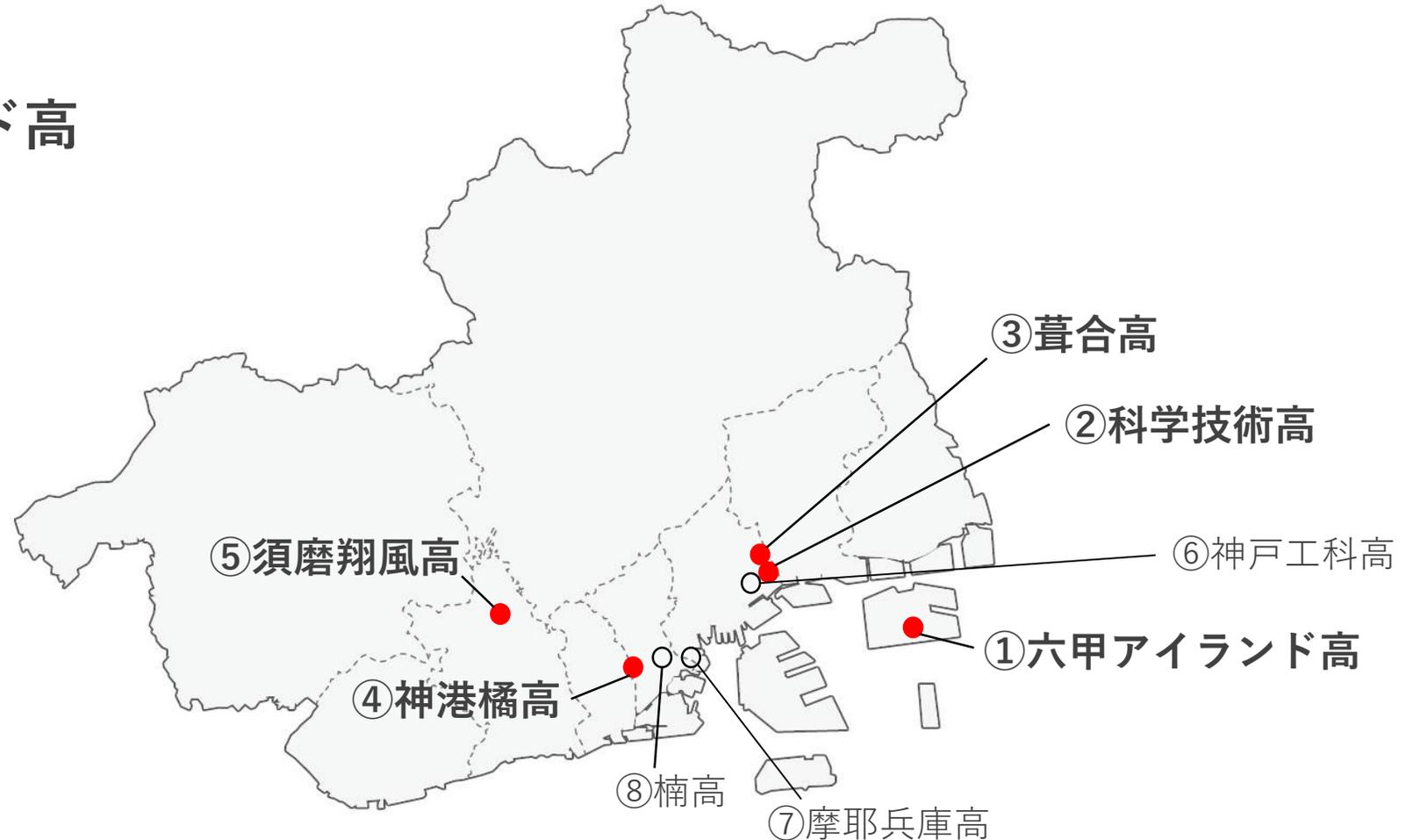
(3) 神戸市立高等学校

全日制 5校

- ・六甲アイランド高
- ・科学技術高
- ・葺合高
- ・神港橘高
- ・須磨翔風高

定時制 3校

- ・神戸工科高
- ・摩耶兵庫高
- ・楠高



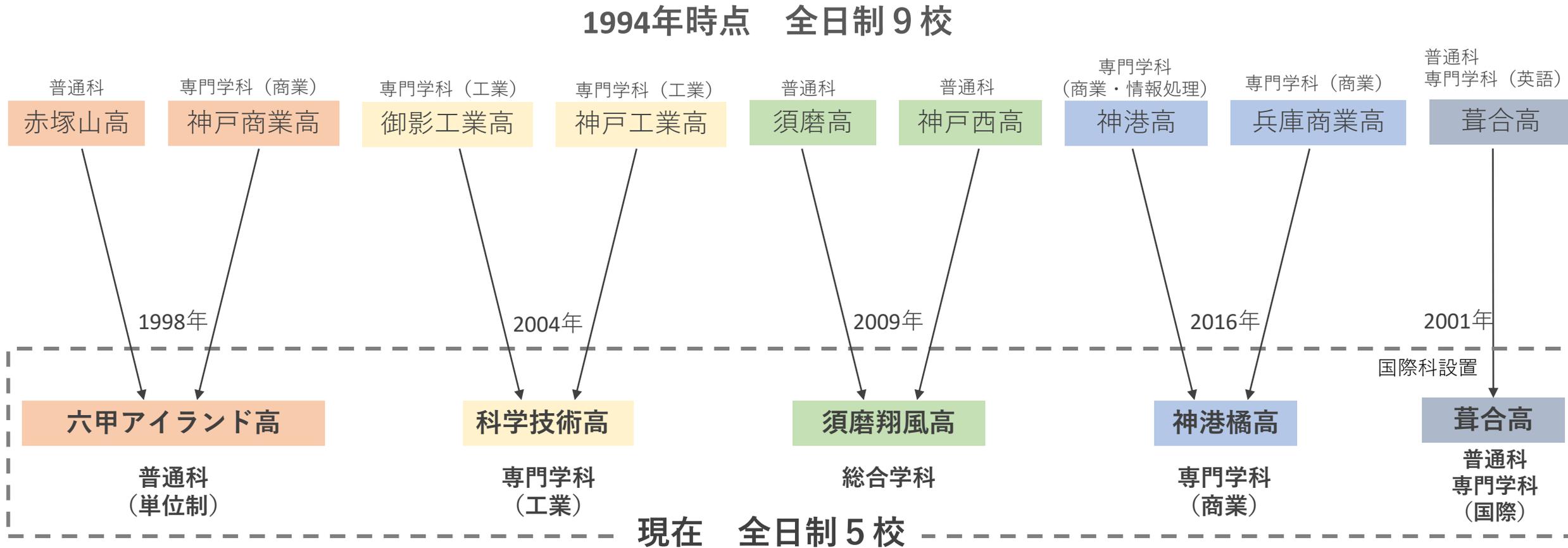
1. 市立高等学校をとりまく状況

(3) 神戸市立高等学校（全日制）

学校名	設置学科	募集定員
六甲アイランド高	普通科（単位制）	360人（9学級）
科学技術高	機械工学科 電気情報工学科 都市工学科 科学工学科	360人（9学級）
葺合高	普通科 国際科	360人（9学級）
神港橘高	みらい商学科	320人（8学級）
須磨翔風高	総合学科（単位制）	280人（7学級）

2. これまでの市立高等学校の取組

1) 市立高等学校の再編



2. これまでの市立高等学校の取組

2) 市立高等学校の特色

六甲アイランド高

- ・普通科単位制
- ・興味関心や進路希望に応じた専門教育
- ・より深い探究活動の実践及び理数教育の推進

特徴的な取組

- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校
- ・特色科目「神戸学」

葺合高

- ・普通科の他に国際科を設置
- ・5カ国9校の海外姉妹校等との国際交流
- ・国際理解や課題解決力を育てる多様な専門科目

特徴的な取組

- ・「KOBE AL ネットワーク事業」拠点校
- ・第2外国語（スペイン語・中国語）

須磨翔風高

- ・総合学科単位制
- ・幅広い選択科目
- ・興味関心や進路希望に沿った学習
- ・充実したキャリア教育

特徴的な取組

- ・3年間の系統的なキャリア教育
- ・「キャリアプランニング」「教育」「福祉」などの特色ある授業

2) 市立高等学校の特色

科学技術高

- ・ 未来志向型エンジニアの育成
- ・ 地元企業や大学、高専との連携
- ・ 専門的なキャリアプログラム
- ・ 実践的かつ体験的な学習

特徴的な取組

- ・ 「KOBE S・M・A・R・T Engineers 育成事業」
- ・ スポーツ支援振興センターによる部活動支援

神港橘高

- ・ 簿記等を学ぶ「会計類型」、
情報処理を学ぶ「情報類型」を選択可能
- ・ 多様な選択科目による専門性の高い授業
- ・ 地元企業と連携した商業教育

特徴的な取組

- ・ 通年型インターンシップ等の課題解決型学習
- ・ みらいサポートセンターの設置

3. 高等学校のあり方に関する課題

▶ 高等学校の学科

- ・ 普通教育を主とする学科（普通科）
- ・ 専門教育を主とする学科（専門学科）
- ・ 総合学科

▶ 普通科の課題

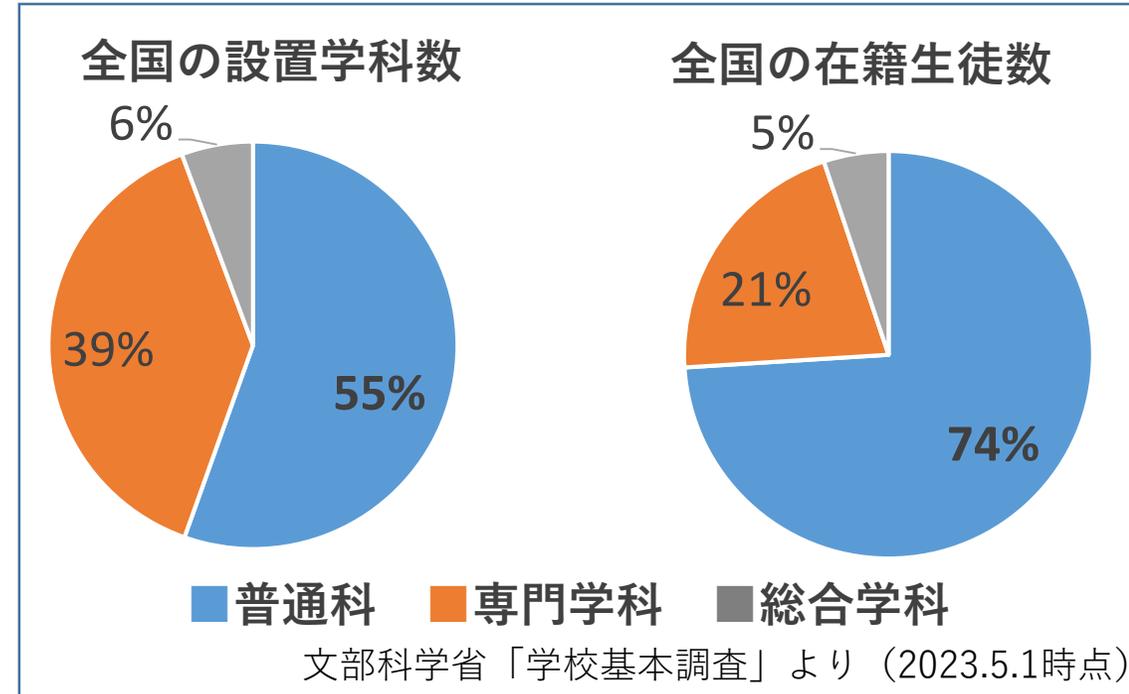
- ・ 「普通」の名称が画一的、一斉的
- ・ 文系と理系に分かれることが多く、
特定の教科について十分に学習できない傾向

文部科学省「新しい時代の高等学校教育の実現に向けた制度改革について」より

文部科学省「普通科改革」による制度改革（2022年）

普通科以外に多様な学科を設置可能に

（例：教科を横断した学びや地域課題に関する学科）



4. これからの市立高等学校のあり方

検討の視点

少子化

グローバル化

地域課題の
解決

テクノロジーの
進化

国際都市としての
歴史・役割

「国際」をキーワードとした特色ある教育
他者を尊重し人とのつながりを大事にする教育
文理融合の探究学習
神戸ならではの教育（例 防災教育）
普通科でのキャリア教育

神戸の産業の
担い手づくり

多様性への深い理解や幅広い知識と発想力を活かし、世界で活躍する人材
他者と協働して課題を解決し、地域に貢献できる人材
チャレンジ精神を持って新たな価値を創造できる人材

の育成

市立高等学校の特色化・魅力化

4. これからの市立高等学校のあり方

「これからの市立高等学校のあり方に関する有識者会議」の設置

委員

※敬称略
50音順

氏名	役職等
浅野 良一	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 特任教授
井上 和彦	神戸市私立学校協会 会長
岡田 恵実	流通科学大学 商学部経営学科 専任講師
鴨井 幸造	バンドー化学（株） 人事部長
斎藤 勝洋	神戸市PTA協議会 会長
佐合 純	iC（株） 代表取締役
佐藤 春実	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授
野村 和宏	甲南大学 全学共通教育センター 教授 神戸市外国語大学 名誉教授
船木 伸江	神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科 教授
ラッシラ エルッキ タピオ	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 助教

今後のスケジュール

2024年1月29日 第1回会議（～2024年度前半 全4～5回程度を予定）



有識者会議での意見をふまえ

今後の市立高等学校のあり方に関する方針案を策定